

|             |                                   |         |     |
|-------------|-----------------------------------|---------|-----|
| ふりがな<br>氏 名 | さかもと れいか<br>坂本 麗香                 | 職 名     | 准教授 |
| 取得学位        | 博士(経営学)                           | 学会での受賞歴 |     |
| 主な担当科目      | キャリアデザイン演習1・2、キャリア入門、家庭経済学、くらしの経済 |         |     |
| 所属学会        | 組織学会、日本キャリアデザイン学会、日本キャリア教育学会      |         |     |

◆ 教育業績

| 事 項                                  | 実 施<br>年月(日)            | 概 要  |
|--------------------------------------|-------------------------|--|
| 「キャリアデザイン1・2」「キャリアデザイン演習1・2」授業用教材の作成 | 平成29年<br>4月～令和<br>4年3月  | 短期大学部の1年生および大学3年生を対象とした講義において、キャリア観の育成、進路選択、ライフプランの設計などの抽象度の高いテーマから、業界研究、自己分析、自己PR、会社訪問マナーなどのより具体的な週直活動に密接にかかわるテーマまでを網羅するカリキュラムとしたうえで、ワークシートなどの教材を作成し活用した。                               |
| 「キャリア入門」授業用教材の作成                     | 平成29年<br>4月～令和<br>4年3月  | 「ライフキャリア」に焦点を合わせて、女子学生がより長期的な視点で自身のキャリアを考える助けとなるよう、毎回の講義のテーマを結婚、妊娠出産、育児、離婚、共働き、介護など人生のライフステージごとに設定した。それぞれのテーマと働くこととの関連性を考えるような様々な資料およびワークシートを作成し活用した。                                    |
| 「マーケティング論」授業用教材の作成                   | 平成29年<br>4月～平成<br>30年3月 | 短期大学部生活学科の学生を対象とした授業において、比較的ビジネス分野への興味関心が薄い学生を対象として穴埋め式のワークシートを作成するとともに、就職活動にも活用できるように、女子学生にとって身近な商品を題材としたマーケティング分野のグループワークとグループディスカッションを取り入れた教材を作成し実践した。                                |
| 「企業論」授業用教材の作成                        | 平成30年<br>4月～令和<br>3年3月  | 家政経済学科の学生を対象とした授業において、比較的ビジネス分野への興味関心が薄く、授業も少ない学生の興味を引くように、次回の講義内容に関連する内容の、実在の企業に関するマーケティング分野のクイズ形式のワークシートを予習用事前課題として用意した。予習で記入して持参してもらい、授業の最初に解説することで、前回の授業とリンクさせて、当日の授業の導入に役立てることができる。 |
| 「家庭経済学」授業用教材の作成                      | 令和3年4<br>月～令和4<br>年3月   | 生活環境学科の学生を対象とした授業において、金融業界への就職やFP関連の仕事をしたい学生だけでなく、様々な職種への関連性と、一人の女性としての有益な知識となることを意識した。毎回の授業ごとに、授業内容に関するワークシートを作成し、コロナ禍で課題学修となった場合でも配布資料で自学自習ができるように設計した。                                |

| 事 項  | 実 施<br>年月(日)                  | 概 要  |
|--|-------------------------------|--|
| 「FP 技能士 3 級特別講座」「日商簿記検定 3 級対策特別講座」「サービス接遇検定 2 級・準 1 級対策特別講座」運営 | 平成 29 年<br>4 月～平成<br>31 年 3 月 | 家政学部家政経済学科所属学生を対象として、FP 技能士検定・日商簿記検定・サービス接遇検定の直前対策講座を企画運営した。FP および日商簿記については、夏季休業中と春季休業中に4日間、サービス接遇検定については7日間の集中講義を行った。FP12名、簿記7名、サービス接遇23名の学生が参加し、FP3級2名、簿記3級3名、サービス接遇準1級2名が合格した。  |
| 「FP 技能士3級・2 級対策特別講座」運営   | 平成 31 年<br>4 月～令和<br>3 年 3 月  | 家政学部家政経済学科・生活環境学科所属学生を対象として、FP 技能士検定の直前対策講座を企画運営した。  |
| オンラインによる「「FP 技能士3級・2 級対策特別講座」運営                                | 令和 3 年 4<br>月～10 月            | コロナ禍において感染者数が増加していた時期と重なったため、初めてオンライン形式を取り入れた。講師と連携して、オンラインでも学生のサポートをリアルタイムで教員が行った。対面方式を1回、ZOOM 使用によるオンライン方式を2回の合計3回での実施を実現した。講座受講者が10人、検定合格者が6人であった。  |
| 「日商簿記検定 3 級対策特別講座」運営   | 平成 31 年 4<br>月～令和 4<br>年 3 月  | 家政学部家政経済学科・生活環境学科所属学生を対象として、日商簿記検定の直前対策講座を企画運営した。家政経済学科と生活環境学科の2学科の学生を対象とした。令和3年度は、コロナ禍において感染者数が増加していた時期と重なり、希望者数が定員に満たず中止となった。  |
| 学生主導のビジネスコミュニケーション・プレゼンテーション能力向上プログラムの実施                       | 平成 29 年<br>4 月～令和<br>2 年 3 月  | ビジネスゲーム体験会およびキャリア講演会を家政経済学科3年の学生主導で企画運営、実施した。前者は、就職の採用活動で実際に使用される教材を使用して、50人弱の学生に対してファシリテーターの役割を果たした。後者は、大手都市銀行勤務の女性を招いて講演会を実施し、事前質問の募集、当日の流れの組み立てと司会進行、講演者へのあいさつ文作成など一連の仕事を全て学生がおこなった。  |
| 新入生オリエンテーション資料在宅版の作成とオンラインでの新入生指導                              | 令和 2 年 4<br>月～6 月             | コロナ禍により新入生オリエンテーションが中止となり、休校期間が5月末までとなった。新入生が在宅でも新年度の履修登録をおこない、6月からの学生生活をスムーズに導入できるよう、オリエンテーション資料を全面改訂および大幅に加筆し、読むだけで必要なすべての情報が入ったものとした。その上で、ポータルサイトを使って毎日(日に数回)新入生への連絡を欠かさずおこない、学生からの質問をとりまとめ、関係機関に確認の上、回答を作成してその都度ポータルサイトから配信した。 |
| 生活環境学科3年指導教員主任   | 令和 3 年 4<br>月～令和 4<br>年 3 月   | アカデミックスキルズの学生指導および所属決定までの業務の実行および実施方法の改訂。配慮を必要とする学生への指導及び教科担任への連絡および連携を1年  |

| 事 項 | 実 施<br>年月(日) | 概 要       |
|-----|--------------|-----------|
|     |              | 間を通して行った。 |

◆ 研究業績

| 区 分 | 著書・論文・発表テーマ・<br>作品・演目 などの名称                                       | 単<br>・<br>共 | 発 行・<br>発 表<br>年月(日) | 発行所 / 誌名・巻号<br>/ 学会・展覧会・演奏<br>会の名称(会場名)   | 備 考   |
|-----|---|-------------|----------------------|---|---|
| 著書  | 家庭科教員のための学習指導技術—主体的・対話的で深い学びを目指して—<br>(第3章第1節「キャリアと生活設計に関する指導技術」) | 共           | 平成30年2月              | 三恵社<br>名古屋女子大学家庭科指導書作成委員会編<br>pp.45-54/全193頁<br>(共著者)青柳由佳・今井邦雄・越前谷智・金井雄一・北原玲子・小出あつみ・小町谷寿子・坂本麗香・白井靖敏・神内教博・富士栄登美子・間瀬清美・間宮貴代子・三宅元子・安井健・児玉珠美・赤塚美鈴・川口実 | 家庭科教員が金融教育とキャリアに関する内容の指導を行う際に有用な無償の教材を紹介するとともに、指導方法およびカリキュラム案を提案した。学生が楽しんで興味を持ち、専門知識の少ない教員でも指導しやすいような、双方向性・ゲーム性・協働性を重視したアクティブラーニングの実現を目指した。                           |
| 論 文 | 短大生のキャリアモデル—四大生との比較—  | 単           | 平成30年2月              | 名古屋女子大学紀要第63号,pp.65-74.   | 女子短大生のキャリアモデルレポートの内容分析により、学生のキャリアモデルを身近な人間とそうでない人間とに区別してその分布状況の実態および課題を、四大生との比較により論じるとともに、その結果を踏まえて、短大でのキャリア教育課程での実践的な改訂案を提示した。                                       |
|     | 企業における女性の働きやすさと活躍推進に対する女子大学生の意識                                   | 単           | 平成31年3月              | 名古屋女子大学紀要第65号,pp.159-169.   | 女性が働き続けやすい社会を目指して、①様々な法律や企業によって制定されている制度②女性が働き続けやすい会社であることを示す数値的指標、③認証制度の名称とマーク、のそれぞれについて、質問票調査により、女子大生の認知度と重視度を分析した。①と②の一部を除いて極めて低い認知度であるが、理解した上での重視度は全体的に高く乖離がみられた。 |
|     | 女性の働きやすさと活躍推進に関する企業の指標に対する女子学生の意識                                 | 単           | 令和2年3月               | 名古屋女子大学紀要第66号,pp.189-200.   | 短期大学部の1年女子学生と四年制学部部の3年女子学生に対して、「女性の活躍」「育児・介護」「働き続けやすさ」の3つの指標に対する重視度についての質   |

| 区 分                | 著書・論文・発表テーマ・<br>作品・演目 などの名称  | 単<br>・<br>共       | 発 行・<br>発 表<br>年 月(日)                | 発行所 / 誌名・巻号<br>/ 学会・展覧会・演奏<br>会の名称(会場名)   | 備 考  |
|--------------------|--|-------------------|--------------------------------------|---|--|
| 論 文                | <p>女性の働きやすさと活躍推進に関する認定制度の効力ー女子大学生の認知度と重視度分析よりー</p> <p>パーソナルファイナンスの導入を目指したキャリア教育授業の展開</p> | <p>単</p> <p>共</p> | <p>令和 3 年 3 月</p> <p>平成 30 年 9 月</p> | <p>名古屋女子大学紀要第 67 号,pp.235-246.</p> <p>日本家政学会中部支部 第 63 回(平成 30 年度)大会研究要旨集 p.28 / 三宅元子・坂本麗香</p> | <p>問票調査に基づき、共通点と違いの分析と考察をおこなった。それをもとに、女子学生の意識形成、大学のキャリア教育、企業の採用活動それぞれに対する示唆を論じた。</p> <p>期大学部の 1 年女子学生と四年制学部の 3 年女子学生に対して、女性の働きやすさと活躍推進に関する認定制度やシンボルマークについて、認知度と重視度を比較分析した。それをもとに、女子学生のキャリア開発の視点から、認定制度の在り方と改善策について論じた。</p> <p>教育職を目指す学生を対象としたキャリア合教育の授業において、パーソナルファイナンスのテーマを取り上げ、その効果を検証した。教員を目指す学生は一般的にパーソナルファイナンスに関する関心度や知識は低かった。しかし、このような意識の低い学生に対してこそ、興味関心を持たせる意義が大きくなる。とくに、学生の人生に寄り添う教育という仕事を目指す学生には、キャリアとパーソナルファイナンスの結び付けはよりいっそう重要である。</p> |
| その他<br>研究発表<br>要旨集 | <p>パーソナルファイナンスの導入を目指したキャリア教育授業の展開</p>  | <p>共</p>          | <p>平成 30 年 9 月 1 日</p>               | <p>日本家政学会中部支部 第 63 回大会<br/>名古屋文理大学<br/>三宅元子・坂本麗香</p>  | <p>教育職を目指す学生を対象としたキャリア合教育の授業において、パーソナルファイナンスのテーマを取り上げ、その効果を検証した。教員を目指す学生は一般的に、生涯賃金など、パーソナルファイナンスに関する関心度や知識は低い。しかし、学生の人生に寄り添う教育という仕事を目指す学生には、キャリアとパーソナルファイナンスの結び付けはよりいっそう重要であることを論じた。</p>   |